

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



上段左：ガジャマダ大学の教職員および学生とインドネシア在住の名古屋大学同窓生との交流会

上段右：支援事業報告：混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ 第47回定期演奏会

下段左：名古屋大学全学同窓会東三河支部設立総会

下段右：支援事業報告：名古屋大学全学同窓会インドネシア支部 ミニホームカミングデーの様子

Upper left: Networking event between students and teaching staff from Gadjah Mada University and Nagoya University alumni currently living in Indonesia

Upper right: NUAL Support Project report: Nagoya University's mixed choir Chor Glanze give their 47th regular concert

Lower left: NUAL Higashimikawa Branch Founding Event

Lower right: NUAL Support Project report: The NUAL Indonesia Branch Mini Homecoming Day

Contents

特集1 愛知県内最初の支部として東三河支部が設立・・2
The founding of our first branch in Aichi Prefecture, the Higashi Mikawa Branch

特集2 第8回名古屋大学同窓会サミット・交流会報告・・4
The 8th Summit Meeting of NUAL Associations

特集3 名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告
「名古屋大学での学びが、こんなに役立った」・・10
Report on the latest NUAL lecture and evening meal

活躍する会員たち・・・・・6
NUAL People in Action

同窓会ニュース・・・・・11
NUAL News

事務局からのお知らせ・・・・・16
From the NUAL Office

特集では、愛知県内最初の支部である東三河支部設立の様子、恒例の全学同窓会サミット、および、全学同窓会講演会の模様をお伝えします。活躍する会員たちのコーナーでは、昭和医科大学の城さん、林野庁の小坂さんにお話しいただきます。同窓会支援事業の報告も4件ご紹介します。

In our special features, we report on the founding of our first branch within Aichi Prefecture, the Higashimikawa Branch, as well as our regular NUAL Summit, and the latest NUAL Lecture. In NUAL People in Action, we hear from Mr. Tachi of Showa Medical University and Mr. Kosaka of the Forestry Agency. We also bring you reports from 4 NUAL Support Projects.

愛知県内最初の支部として東三河支部が設立 *The founding of our first branch in Aichi Prefecture, the Higashi Mikawa Branch*

名古屋大学全学同窓会東三河支部
事務局長
荒木 聖行



1. はじめに

2025年6月29日、ホテルアークリッシュ豊橋にて名古屋大学全学同窓会東三河支部設立総会が開催されました。総会は、東海国立大学機構の松尾清一機構長、名古屋大学の杉山直総長、名古屋大学全学同窓会の伊藤義人副会長、名古屋大学全学同窓会の木村彰吾代表幹事を来賓としてお招きし、「総会の部」、「講演会の部」、「懇親会の部」の3部構成で開催されました。東三河からは1961卒の大先輩から現役学部生まで幅広い年齢の方が70名弱参加され、盛況の中、閉会となりました。

2. 設立の経緯

愛知県南部に位置する豊橋市を中心とする東三河地方では、従前は学部ごとの部局同窓会が同窓生間の情報交換や親睦などの役割を果たしてきました。コロナ禍の影響で総会が開催されない期間を経て、部局同窓会の役員が若返る中、学部単位ではなく、学部を横断した全学部同窓会を求める声があがりました。

2024年11月、東三河キタン会令和6年度総会に参加した経済学部、法学部、工学部のメンバーを中心に発起人会が立ち上がり、数か月の全学同窓会本部との調整の後、4月22日の幹事会において正式に承認されました。

3. 総会の部

総会の部では、支部長予定者の安達道行の挨拶、名古屋大学を代表して杉山総長のご挨拶、全学同窓会を代表して伊藤副会長のご挨拶の後、支部内規（案）、支部幹事会役員（案）の2つの議題が提出され、多数の拍手にて無事可決され、東三河支部が正式に発足となりました。

4. 講演会の部

講演会の部では、杉山総長、木村代表幹事の2名より、大学と同窓会の現状について講演をいただきました。

杉山総長の演題は「名古屋大学の挑戦」。時間が限られる中で、名古屋大学のNextビジョン2027、4つの戦略（1：教育・人材育成、2：研究・価値創造、3：社会連携・産学連携、4：国際展開）と運営方針についてご説明されました。

最後に、多様性（女性、外国人など）と包摂性による組織活性化、デジタルユニバーシティ構想などを説明いただき、「世界屈指の大学を目指す名古屋大学。自由闊達な学風の下、世界を相手にドキドキすること、面白いことを！名大の挑戦は続きます！同窓生の皆様、応援をお願いします！」のメッセージでご講演を締められました。

木村代表幹事には名古屋大学同窓会についてご紹介いただきました。設立理念、全学同窓会役員、活動内容、国内・海外支部設立状況をはじめ、令和5年2月にご逝去された豊田章一郎前会長の功績を称え、名古屋大学および全学同窓会の連名で顕彰を行い、豊田講堂に胸像「豊田章一郎博士之像」を建立した件、大学支援事業、主催する講演会・夕食会、名古屋大学ホームカミングデイにおける企画、令和6年度会計報告についてご説明いただきました。

5. 懇親会の部

講演会の部の後、集合写真の撮影を行い、懇親会の部へと移りました。

来賓挨拶として、松尾機構長からご挨拶いただき、支部顧問として衆議院議員を務める今枝顧問から挨拶をいただきました。乾杯の挨拶は元衆議院議員の山本顧問にお願いし、



安達道行支部長



杉山総長による講演会



安達支部長による挨拶

ご自身の経験なども踏まえ、同窓会をどう人生に活用するかなどアドバイスもいただきました。

乾杯の後はしばらく歓談の時間をとり、現役生の小松美子さんから、「名大 LinkT Project — 着てつながる、名大の輪」の紹介と協力のお願がありました。小松さんからのお話の後、司会の馬飼野幹事がマイクを持って各テーブルを回り、一人ずつ簡単な自己紹介をしていただきました。個性豊かな自己紹介がつづき、多少予定時間を超過してしまいましたが、無事終わりを迎えました。

最後は、木村代表幹事から中締め挨拶をいただき、盛況の中、懇親会の部を終えました。

6. 今後の活動

東三河支部は来年以降も6月に総会を開催予定です。今回の総会までには、ホームカミングデーへの参加や部会同窓会への参加、地元の大学対抗ゴルフ大会への参加などを計画しています。

設立総会に参加された方々を中心に、同窓会への参加者や中心となる幹事会の拡充に努め、全学同窓会、名古屋大学を各支部の皆様と共に盛り上げていきたいと思っています。

名古屋大学全学同窓会東三河支 UH 部

(<https://nual-higashimikawa.jp/>



)



集合写真

第8回名古屋大学同窓会サミット・交流会報告

The 8th Summit Meeting of NUAL Associations

名古屋大学同窓会サミット議長
名古屋大学全学同窓会副会長
伊藤 義人



1. はじめに

平成29年から始めた名古屋大学同窓会サミットの第8回を、7月26日（土）の午後4時から、豊田講堂シンポジオンホールで実施し、その後午後5時半から豊田講堂のユニバーサルクラブで交流会を行いました。同窓会サミットは、部局同窓会（会長および事務局長など）と全学同窓会および大学本部との貴重な情報交換の場となっています。

大学からは、杉山総長、松尾機構長、佐久間副総長および木村副総長（代表幹事）が、全学同窓会からは、齋藤副会長と私が参加し、部局同窓会から21同窓会の26名を含め総数32名が参加しました。

2. 同窓会サミット

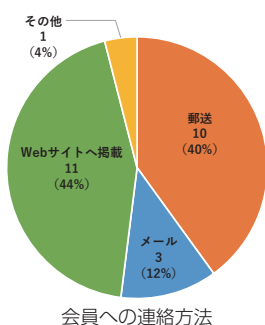
議長の私から開会の辞の後で、全学同窓会の齋藤副会長から挨拶がありました。その後、杉山総長からご挨拶をいただきました。

その後、名前と所属だけの各出席者からの自己紹介がされました。

前回の第7回名古屋大学同窓会サミット議事メモ案を承認した後で、議事に入りました。

(1) 最近の同窓会活動について

最近の同窓会活動について、事前アンケートの結果に基づき、郵



名古屋大学同窓会サミット

送料の増大など同窓会の課題について私から説明をしました。以下のような意見交換がありました。

a) メールアドレスなどの名簿管理

- ・名簿管理が重要課題であり、メールによる連絡手段が学部・研究科単位、あるいは同窓会の部局単位では十分に機能していない。各部局で個別に対応しており、非常に手間がかかっている状況であるため、全学的な支援をいただけないか。
- ・セキュリティを確保して手間を省くためには外注化も一方策である。
- ・株式会社イーストレイドが提供する「アルムネット」というソフトウェアシステムに、独自にカスタマイズを加え、名簿管理や会費の徴収（クレジットカード・口座振替）も可能な仕組みを構築した。
- ・個別の部局で対応するよりも、同窓会全体で一括して運用する方が効率的であると考えられる。ただし、全学同窓会は会費を徴収していないため、一定の投資を行い、全体を管理できる体制を整えることができれば、各部局の皆様にも活用していただけるようになる。

b) 若手会員の確保など

卒業式当日に同窓会への入会を促す活動を行っており、メールアドレスの記入をお願いしているが、今年度からはQRコードを活用した入会手続きの導入を検討している。卒業式の前に案内を配付し、それを通じて入会できる仕組みを整える予定であり、会費の支払いについても、オンライン決済の導入を進めたいと考えている。

- ・若い世代を同窓会活動に巻き込むためには、オンラインでの会議やイベントの開催が重要であると考えている。今年のホームカミングデーでは「GSID Calling」というテーマを掲げ、卒業生への呼びかけを強化する予定である。国内外で活躍している卒業生との関係を維持するためにも、若い世代の会員獲得と同窓会の継続的な運営が重要である。
- ・卒業生のタイムカプセルを埋設する取り組みを開始している。

c) 大学などへの寄附について

手続きが簡単なふるさと納税制度を利用した寄附が大きな話題となりました。

- ・名古屋市は16大学に対してシステムを導入している。各大学へ資金を分配する仕組みがある。大学への直接的な納入ではないので課題としては、名古屋市が相当のコミッションを取ること、資金の配分が助成金という形で大学に渡され用途が限定されるため、名古屋大学基金や部局の特定基金と裁量が異なり、資金規模も大きくない。
- ・寄附者にとっては、手軽に寄附することが可能である。
- ・卒業式や入学式、ホームカミングデーなどの機会に

声をかけることが重要であり、寄附への関心を高めることができる。

- ・同窓会は任意団体のため免税措置がないが、大学や部局を紹介することで、寄附の意義を伝えることが可能である。

3. 名古屋大学基金（特定基金）の現状報告と今後の連携について

木村副総長から、名古屋大学基金（特定基金）の現状報告と今後の連携について、配付資料に基づき説明がありました。

- ・寄附目標額は明確であり、300億円といった切りの良い数字を掲げることで、寄附者の意識を高める効果がある。卒業生の寄附件数をKPIとすることは有効であると考えており、国際卓越研究大学ではマッチングにより助成金を獲得するため、目標を達成できなければ、寄附者に対しても信頼を損なう可能性があり、数値目標の設定には慎重を期す必要がある。
- ・大口寄附者へのメリットとして、誕生日に花を贈るなどの対応も有効である。
- ・そのようなきめ細かな対応が必要であると考えており、1,000万円以上の大口寄附者に対して特別なフォローを行っている。
- ・高額個人寄附者に対しては、100万円以上の寄附をいただいた方々を対象に、毎年3月に「名古屋大学基金感謝の集い」にご招待している。また、毎年開催されるイベント（キャンパスコンサート、ホームカミングデイ「名古屋大学の集い」）においても、寄附者の方をご招待している。「春の名大応援キャンペーン」については、入学シーズンに実施しており、新入生のご家族からの寄附が多く、一定額以上の寄附をされた方には卒業式への招待を検討している。
- ・豊田講堂に20万円以上の寄附を行った方々の氏名を銘板として掲載される仕組みがあり氏名が記録として永遠に残ることは非常に大きなモチベーションとなっている。
- ・高額寄附者のファンドレイジングは単なる資金調達ではなく、大学のビジョンと寄附者の思いをすり合わせて、億単位の寄附をいただいております、高度なファンドレイジングの成果である。

次に、松尾機構長から、Common Nexusについて報告がありました。

- ・中央図書館前の名古屋大学グリーンベルトを持ち上げて、1階と地下1階に約7,000平方メートルの交流スペースを整備した。多様な人々が集うことにより新たな価値を創出することを目的として7月1日より運用を開始している。学生が授業や実習の合間に利用しており、昨日の報告によれば、1日あたりの延べ利用者数は4,000～5,000人に上る。本施設は機構により設立されたものであり、岐阜大学との連携も行われ



齋藤副会長による乾杯（交流会）

ている。企業や自治体関係者にも来訪いただき、名古屋大学の活動を知っていただく機会となっている。Common Nexusを起点とし、人材、資金、自治体の交流により好循環を起こす役割も果たしており、文部科学省の施設認証の第一号として認定された。次に北海道大学でも同様の施設が設立される予定である。同窓会の集まりなどにも対応可能であり、皆様にはぜひご利用いただきたいと考えている。

木村代表幹事から以下の報告がありました。

- ・全学同窓会講演会が12月9日に開催される予定である。
- ・ホームカミングデイが10月18日に開催される。昨年度第20回としてSAKE テラスという企画を実施したが、非常に好評であったため、今年も同様のイベントを開催する予定である。各部局のイベントも掲載しているため、ご確認いただきたい。

最後に閉会の挨拶として、松尾機構長から閉会の辞が述べられた。寄付などのお金の話で活発な意義ある議論が行われたことに対する感想が述べられました。

4. 交流会

交流会が、同窓会サミット後、ユニバーサルクラブで開催されました。齋藤副会長の開会挨拶の後で、個別の懇談が行われました。後半で、各部局・学科・専攻同窓会の代表から、それぞれの同窓会が抱えている種々の課題などについて忌憚のない発言がありました。今回は、全学同窓会との関係がサミットで話題となったため、木村代表幹事からも発言がありました。最後に佐久間副総長の閉会の辞で、大変楽しい有意義な交流会となりました。

5. おわりに

大変活発な議論が同窓会サミットでは行われました。交流会では、各部局同窓会の課題や悩みが率直に話されました。大変有意義な会となり、来年度以降も継続することになりました。

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界における活躍ぶりをご紹介します。第44回は、法学部を卒業され検察官・法医学の分野でご活躍の城さん、農学部を卒業され林業・森林行政の分野でご活躍の小坂さんにお話しいただきます。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. In this 44th installment, we hear from Mr. Tachi, a graduate of the School of Law who went on to work in the fields of public prosecution and forensic medicine, and Mr. Kosaka, who graduated from the School of Agricultural Sciences and now works in forestry governance.

たち ゆういちろう
城 祐一郎さん



■略歴

昭和55年10月 司法試験合格
昭和58年 4月 東京地検検事任官
平成元年～12年 東京地検特捜部、大阪地検特捜部及び神戸地検特別刑事部
平成16年 4月 大阪地検特捜部副部長
平成18年 1月 大阪地検交通部長
平成19年 6月 大阪地検公安部長
平成20年 1月 法務総合研究所研究部長
平成21年 7月 大阪地検堺支部長
平成23年 4月 最高検察庁刑事部検事
平成28年 4月 明治大学法科大学院特任教授・最高検察庁検事
平成29年 4月 最高検察庁刑事部検事
平成30年 4月 昭和医科大学医学部法医学講座教授（薬学博士）・警察大学校講師・慶應義塾大学法科大学院非常勤講師（国際刑事法担当）

私は、昭和55年10月に司法試験に合格し、翌年3月に、当大学法学部を卒業しました。私は、当初、弁護士になるために司法試験を受験しようと考え、そのため、当大学法学部に入学しました。それゆえ、割と早くから司法試験の勉強を始め、上記のとおり合格することができました。ただ、比較的早めに合格できたことから、あわてて弁護士になる必要もないかと考え、寄り道をするために裁判官になろうと考えました。それで司法研修所には裁判官志望である旨を伝えると、快く受け入れてくれ、修習中は、ずっと裁判官になる予定で過ごしていました。

ただ、最後の修習が検察であったところ、そこで、東京地検特捜部上がりの検事と出会い、特捜部検事の仕事に強いあこがれを持ち、そのため方向転換をして、裁判官ではなく、検事になることにしました。ですから、私は、検事に任官したその時から、特捜部を希望すると表明し、その後もこの部に入れてもらえるように、被疑者から真相を引き出す力、これを我々は、被疑者を落とすとか、割るなどという言い方をしますが、そのような能力を身に着けるべく、日々、否認の被疑者と対峙して、取調べに邁進してきました。そのせいか任官して7年目に大阪地

検特捜部に入ることができ、その後、東京地検特捜部、大阪地検特捜部、神戸地検特別刑事部、大阪地検特捜部と異動し、検察官による独自捜査に従事し経験を積み上げていきました。

そのため、検事任官16年目の大阪地検特捜部の時代には、主任検事として、大阪府下の農協の背任事件を端緒とし、和歌山市議会議長のあっせん収賄事件、更には、和歌山市長による加重収賄事件を立件し、起訴しました。和歌山市長は、本来であれば採用試験に合格できない者について賄賂を収受することで職員として採用するという行為、つまり、裏口就職ですが、これを繰り返していたのです。また、その翌年には、主任検事として、幸福銀行（当時：現在の関西みらい銀行）の頭取らによる特別背任事件を手掛け、被害金額が100億円弱にも上る事件として被疑者らを起訴いたしました。

その後、国連関係の研修機関で3年ほど教官として勤務した後、大阪地検刑事部副部長となり、さらに、その1年後には、大阪地検特捜部副部長となりました。ここで部下の特捜部検事を指揮して、数々の知能犯事件の捜査に当たっておりました。そして、同副部長から大阪地

検交通部長になり、この時に、「逃げ得を許さない交通事故捜査」という本を出版するなど、種々の交通事件、特に、危険運転致死傷罪に関する知見を深めていきました。さらに、その後には、法務省法務総合研究所研究部長として、犯罪白書の作成や、刑事政策に関する調査・研究などを行いました。そして、最高検察庁検事を経て、平成30年3月末に、35年間の検事生活に終止符を打ちました。ただ、最高検にいた間に、薬学関係の学修・研究もして、薬学の論文を書いて博士号を取りました。

そして、退官したその翌日である平成30年4月1日から、第2の人生として、昭和医科大学医学部の法医学講座の教授としての生活が始まりました。ここでは、司法解剖の立会いや、法学と医学の境界線上にある諸問題を学生に講義するなどの職務に従事しております。

また、その一方で、慶應義塾大学法科大学院において、国際刑事法を教えております。これは上述した国連関係の機関での勤務や法務総合研究所の研究部長をしたことなどがベースとなっており、その後の研究成果なども踏まえて、国際法と国内法との関連、連携など種々のテーマに関して講義しているものです。

さらに、警察大学校での講義も頻繁にあり、ここでは

主に、警部になった者らに対する講義などをしていますが、私が教えた警部以上の幹部警察官は、既に2万人を超えております。くわえて、近時は、各都道府県警察から、危険運転致死傷罪に関する講義依頼も多く、これは上述したように、大阪地検交通部長の時に身に付けた能力に依拠する部分も多いのですが、例えば、昨年10月などは、同月1日に富山県警、同月3日に山口県警、同月7日に福岡県警、同月11日に福島県警、同月18日に兵庫県警、同月29日に埼玉県警といった全国各地の警察本部で講義しております。また、この危険運転致死傷罪の関係では、令和5年10月下旬頃に、NHKのクローズアップ現代に出演して、危険運転致死傷罪の解説も行いました。

現在では、日本法医学会などの自然科学系の学会で講演することも多く、多忙な毎日を送っておりますが、そのベースは検事時代における捜査の過程で学んだことや、それを更に発展させられるように関係法令や学説、判例等の学修・研究を続けてきたことによるものです。与えられたポジションで全力を尽くし、また、その際に、併せて学べる事柄を貪欲に吸収してきたことが、今日の多忙な毎日に繋がっているのだらうと思っております。



平成5年1月から6月まで法務省在外研究により米国ロサンゼルスに派遣された際、当時のロサンゼルス地検検事正と会見

こさか ぜんたろう
小坂 善太郎さん



■略歴

1988年4月 農林水産省林野庁に入庁

岡山県西粟倉村、北海道局日高北部森林管理署長、石川県森林管理課担当課長などの現場経験を経て
林野庁業務課長、計画課長、国有林野部長、森林整備部長、次長の本庁勤務をし、
2025年7月から林野庁長官

「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環が地方を地球を人々を救う

1 はじめに

昭和63年3月に名古屋大学農学部林学科を卒業して4月に農林水産省林野庁に入庁した。林野庁に務めて早いもので37年余の年月が経つ。その間、森林・林業を取り巻く情勢は大きく変わったと思う。当時は「伐採=悪」といった風潮が圧倒的に強かった。例えば、知床の国有林の伐採を阻止する運動や、割り箸を使わずマイ箸を使おうという運動が起こるなど木材利用は環境破壊につながるという考えが一般的だったと思う。今は「伐って、使って、植えて、育てる」といった適切な循環利用が地方創生や地球温暖化防止に貢献するといったことがかなり認知されてきたと思う(手を付けず守るべき森林はきっちりと保全した上での循環利用である。)。住友林業さんがとても良いコマーシャルを流してくれている。小日向文世さんと板垣李光人さんが出演する森林や木材利用が地球温暖化防止に寄与するといった内容のCMだ。このような変化を意識しつつ森林・林業行政について述べたい。

2 先人が築いてくれた人工林資源

林野庁で仕事をしていて、つくづくありがたいと思うのは戦後先人が木を植えてくれたことだ。森林の4割に相当する1000万 ha の人工林が造成され、これは世界的にみてもトップテンに入る資源量だ(表1)。現在、この人工林の大半が50年生を超え利用可能な資源となって

いる。山形県、岡山県、北海道、石川県と地方勤務を経験してきたが、どの現場でも昔の人はこんな奥地までよく植えたものだと感心させられる。植えすぎだという指摘は否定できないし花粉症といったデメリットもある。しかし、狭い国土で天然資源に乏しい我が国にとってこの人工林は貴重な資源といえよう。この資源を循環利用することにより地方創生に繋げていきたい。森林・林業基本計画において、1000万 ha の人工林のうち3分の2の660万 ha を循環利用することを指向している。つまり、我が国の2500万 ha の森林の約4分の1を循環利用するといった考えだ。こうした考えのもと、この資源を活かし次の世代に引き継いでいくことが我々世代の使命だと思う。しかし現実には甘くはない。一番の課題は価格の低迷により林業が儲からなくなったことであろう。木材価格が最も高かった昭和55年でスギの立木価格が2万2千円 / m³で現在は4千円ほど。実に5分の1だ。林業は植えて収穫するまで50年以上かかるが育てている間に価格がこれだけ下がるのはたまったものではない。このため、多くの人工林が放置されている。先人が築いてくれた人工林資源は活かすことができないのだろうか。我が国は住宅等の建築材の半分を輸入材に頼っているが、これらの木材は主に北欧、北米、ニュージーランドといった先進国の人工林からやってくる。これらの国では循環林業が経済的に成り立っているのだ。我が国でもできないわけではない。様々な新技術を導入することにより生産コストを下げ、付加価値を高めることにより、昔のように儲からないが資源循環ができる体制は構築可能と考えている。加えてCO₂の

吸収貯蔵といった効果を価値化すれば、この人工林資源は大きな可能性を秘めていると考える。

3 地球温暖化と森林

今年の夏も暑かった。CO₂等の温室効果ガスの増加により地球温暖化が進み豪雨災害など様々な影響を及ぼしていることは疑う余地がない。図1は森林資源の循環利用のCO₂の効果の模式図だ。このグラフにあるように伐採を行わず保全するよりも、伐採、再造林を繰り返す方が木材利用による貯蔵効果や化石燃料の代替効果によってCO₂削減への効果は高い。前述のとおり我が国には先人が築いてくれた人工林資源があり、これを持続的に循環利用することにより、2050ネットゼロに大きく貢献することができる。近年、企業活動を進める上で地球環境問題への対応が必須となるなか、企業等の協力のもと森林・木材のCO₂吸収・貯蔵効果を価値化することにより、持続的な森林経営に直接的に貢献する仕組みの構築を進めている。具体的には森林吸収量をクレジット化するJクレジット制度や木材利用のCO₂効果を制度的に可視化して企業等の木材利用を促す仕組みの検討を進めている。近年、横浜市に大林組さんが建設した11階建ての純木造ビルや東京駅から皇居に向かう途中に東京海上さんが建設予定の20階建て100mの木造と鉄骨の混構造のビルなど、都市部に木造の建築物が目につくようになってきた。これらの建築物は利用者にぬくもりや安らぎを与えるとともに街に落ち着きのある良好なたたずまいを提供してくれる。このような施策によって街の中に木があふれるようにしていきたい。

4 終わりに

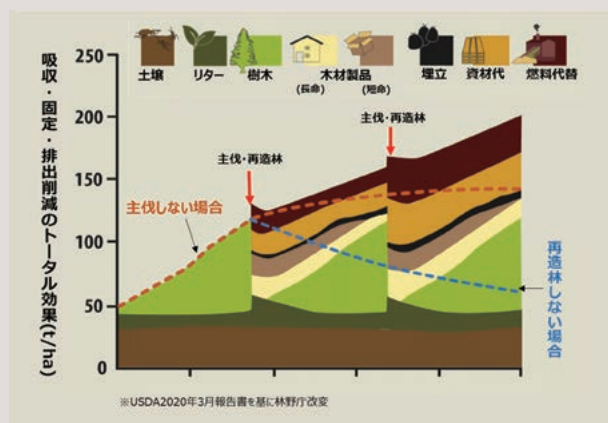
大阪万博を訪れると大屋根リングの骨太の集成材と我が国の木造技術による圧倒的な素晴らしさが印象的だ。CLT（直交集成材）をふんだんに活用した日本館も目を

（表1）人工林面積は世界で第8位

▶ 人工林面積上位10カ国

順位	国	人工林面積	人工林率
1	中国	84,700	38.5
2	米国	27,500	8.9
3	ロシア	18,900	2.3
4	カナダ	18,200	5.2
5	スウェーデン	13,900	49.7
6	インド	13,300	18.4
7	ブラジル	11,200	2.3
8	日本	10,200	40.8
9	フィンランド	7,400	32.9
10	ドイツ	5,710	50.0

資料：FAO「世界森林資源評価2020」を元に林野庁作成。
森林・人工林面積の単位は千ha、森林・人工林率は%。



（図1）森林資源の循環利用のCO₂効果

ひく。自分が一番感動したのは大屋根リングに登って眼下に各国のパビリオンを目にした時だ。北欧、北米の国々ならわかるが、バーレーン、ウズベキスタンなど多くの国々のパビリオンが木をふんだんに使って建てられていた。万博は人類の課題を人類の英知により解決する方策を提案するものといえる。多くの国々が木を使うことが未来の地球・人類を救うことになると提案しているようで嬉しくなった。大げさなタイトルとしたが、先人が築いてくれた我が国の人工林資源を適切かつ持続的に循環利用することにより、林業等を通じて地方（田舎）の賑わいに繋がり、CO₂の吸収・貯蔵を通じて地球環境問題の解決に寄与し、建築物の利用者に良好な空間を提供する、こういった一石三鳥を目指して取り組んでいきたい。

名古屋大学全学同窓会講演会・夕食会報告 「名古屋大学での学びが、こんなに役立った」 *Report on the latest NUAL lecture and evening meal*

名古屋大学全学同窓会
事業委員会委員長
根本 二郎



名古屋大学同窓会講演会が令和7年1月10日（金）に、一般社団法人学士会との共催で野依記念学術交流館2階カンファレンスホールにおいて行われました。参加者は80名でした。今回は、ブラザー工業株式会社取締役副会長（講演当時）の佐々木一郎氏をお招きし、「名古屋大学での学びが、こんなに役立った」というテーマでご講演をいただきました。佐々木氏は、名古屋大学工学研究科電気・電子工学専攻で修士学位を取得された名大OBでもあります。

木村代表幹事の挨拶と講師紹介に引き続き、佐々木氏のご講演に移りました。最初にブラザー工業の歴史と現況を紹介されました。次いでご自身の学びと経験について貴重なお話をいただきましたが、その冒頭で語られた佐々木氏の人生のミッションが「未来のために今より少しでも良い世界を残す」であること。これは小学3年生のとき、生きる意味について悩んだことから導かれたとのことですが、その直前に紹介されたブラザーのミッション「あらゆる場面で、お客様を第一と考え、優れた価値を創造して迅速に提供する」にも通ずる理念です。力強い口調とともに、佐々木氏の揺るぎない歩みを支える信念がそこにあることが伺えました。

さて、本題の「名古屋大学での学び」ですが、名古屋大学の学生時代、佐々木氏は雨宮研究室（故雨宮好文名誉

教授の研究室）を志望して配属されます。志望理由は、研究室の「社会に貢献する」ポリシーがご自身のミッションに合致することに加え、大変厳しいという評判を聞いて自分の成長のために良いと判断されたからでした。それらはまさに期待通りであったことが、いくつかのエピソードとともに語られました。その一つが修士論文のテーマは自分で探すという研究室方針でした。問題解決型でなく問題発見型になれば、与えられたテーマだけでなく自分が重要だと思ったテーマを提案して取り組み、ということです。この姿勢を学んだことが、佐々木氏が雨宮研究室に感謝することの第一です。

佐々木氏も自分のテーマを見つけるべく、徹底的にあらゆる文献に目を通し業界紙のメーカー情報や世の中の動きにまで目を配りました。苦勞してこれだと思うものを見つけても、教授はじめ他の研究室メンバーはそのテーマに通暁しているわけではなく、それがいかに意味のあるテーマであるか理解してもらうためのプレゼンテーションはさらに大変です。しかし、良い説明のためにはまず自分が深く理解すること、的確な質問と質問者の真意を汲んだ回答は参加者全員の理解を高めることなど、研究室での発表と質疑から学んだことが会社に入ってから非常に有益であった。これが雨宮研究室の学びに感謝することの第二です。そして第三の雨宮研究室への感謝は、工学は実学で世の中の役に立つことが重要であることを学んだことでした。企業からの委託研究で多くの試作品を製作したこと、社員向け教育の依頼を受けて教える経験を積んだことなどは、佐々木氏にとって財産となったということです。

講演は、たくさんの失敗経験で実行力を成長させてほしい、という若い人達へのメッセージで締めくくられました。講演後の質疑でも、現役の院生や中高生からの質問が相次ぎ、佐々木氏から熱いエールが送られました。その後の夕食会でも議論は尽きることなく、盛会のうちに終えることができました。無事に開催できましたこと、皆様に感謝申し上げます。



講演する佐々木一郎氏



会場の様子

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

全学同窓会関東支部令和6年度講演・交流会開催

2025年2月16日（日）、関東支部令和6年度講演・交流会をKKR ホテル東京において開催しました。総勢82名の参加となりました。

中村利雄支部長の挨拶に続き、杉山直総長から「名古屋大学の国際戦略」と題して、お話をいただきました。



講演会では、名古屋大学名誉教授浜田道代先生に「コーポレート・ガバナンス改革の行方～過去から未来へ～」と題してご講演いただきました。内容は、「コーポレート・ガバナンスとは何か？」に始まり、世界各国の企業統治システムがどのように変化して現在に至るかを詳細に説明していただきました。講演のパワーポイントファイルは事後、参加者全員に提供されました。

交流会に先立って、名古屋大学交

響楽団アルミニの「山の上アンサンブル」（Vn. 小西千晶氏（農）、朝日涼氏（文）、Vla. 高橋淳氏（法）、丹羽健二氏（工）、Vc. 安富聡氏（理）、朝日栄氏（法））による「ブラームス 弦楽六重奏曲第1番第1楽章」が演奏されました。

交流会（懇親会）は、着席スタイルのビュッフェ形式で行い、最初に木村彰吾代表幹事からご挨拶をいただき、岸徹支部事務局長の乾杯後それぞれの席にて交流が始まりました。

会後半には、伊藤義人副会長のご挨拶、小堀康生学生会理事・事務局長からの学生会ご紹介があり、第八高等学校寮歌「伊吹おろし」、学生歌「若き我等」と続けて歌い、片岡大造支部顧問の挨拶で閉会となりました。

（関東支部事務局長 岸 徹）



参加者の集合写真

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部第16回総会・講演会・懇親会のご報告

関西支部では、本年5月17日（土）、大阪の中央電気倶楽部にて関西支部第16回総会・講演会・懇親会を開催いたしました。参加者は60名を超えました。

宇宙論をご専門とする杉山直名古屋大学総長に「光の宇宙と暗黒の宇宙」と題するご講演をしていただきました。「現在の宇宙の姿はどのようなものか？」という問いに、「宇宙の姿・構造は見えるものがすべてではない」ということで、見えるものは「光の宇宙」であるが、見えないもの（ブラックホール、ダークマター、ダークエネルギー）の「暗黒の宇宙」があり、「実は、宇宙は暗黒に支配されていることが観測的にわかってきた」ということで、まことに壮大なお話でした。

また、総長の大学によるご報告や木村代表幹事による同窓会のご報告をしていただきました。

■連絡先：関西支部事務局長 脇田喜智夫

075-253-0777（御所南法律事務所）



杉山総長による講演

岐阜支部 NUAL Gifu Branch

岐阜支部2025年度総会・講演会・交流会

名古屋大学全学同窓会岐阜支部の2025年度総会・講演会・交流会が、5月24日（土）、JR 岐阜駅に隣接する「じゅうろくプラザ」で開催されました。来賓としてお迎えした杉山総長、松尾機構長、木村代表幹事はじめ61名の参加を得て、以下のプログラムに沿い、和やかな雰囲気の中で行われました。

第一部：総会（5F 大会議室）

- | | |
|------|---------------------------------|
| 開会の辞 | 小笠原文雄（岐阜支部長） |
| 来賓挨拶 | 杉山直（名古屋大学総長）
松尾清一（東海国立大学機構長） |
| 議 事 | 活動報告・活動方針 会計報告
監査報告 幹事会役員 |
| 記念撮影 | |



総会参加者の記念写真

第二部：講演会〈持続可能な社会を語る〉

（5F 大会議室）

塩崎智子（十六フィナンシャルグループ取締役執行役員・
1995年経済学部卒業）

「金融機関におけるサステナビリティへの取り組み」

李 小平（森ビル株式会社設計部チームリーダー・
2001年工学研究科修了）

「大規模開発における省エネ、環境共生の取り組み」

第三部：交流会（1F ラ・ローゼ・プロヴァンス）

講演会では、持続可能性をめぐる取り組みの現状や課題の報告があり、同窓お二人の活躍ぶりがよくわかるもので、大変好評でした。続いて着席サーブで行われた交流会には51名が参加し、恒例のじゃんけん大会で盛り上がるなか、見事な一本締めで幕を閉じました。

なお、来年度の総会・講演会・交流会は、2026年5月30日（土）午後、じゅうろくプラザで開催される予定です。

■連絡先：岐阜支部 2019nugaa@gmail.com

遠州会 NUAL Ensyu Branch

全学同窓会遠州会 第26回同窓会開催

名古屋大学遠州会同窓会は、第26回同窓会を令和7年5月31日（土）18時から、浜松市内のホテルにて、来賓に杉山直総長と全学同窓会の伊藤義人副会長、木村彰吾代表幹事をお迎えし、会員47名が出席して開催しました。最初に出席者全員の集合写真を撮影し、野村和彦会長の挨拶の後、アツミ電気株式会社林寛樹様により、「最新のカメラシステムについて」と題して講演会を実施しました。引き続き杉山直総長が、「名古屋大学の国際戦略—21世紀、Sustainable な世界を構築するアジアのハブ大学—」というタイトルで名古屋大学の現況や取巻く環境、今後向かっていく方向についてスライド資料を投影されながら詳しくお話をされました。伊藤副会長からは遠州会と全学同窓会の歴史を、木村代表幹事からは「名古屋大学全学同窓会2024年度の活動報告と2025年度の活動計画について」のご紹介がありました。その後、南方陽顧問の乾杯発声で懇親会をスタートし1年ぶりの再会を楽しみました。会の中盤では用意した名大オリジナル商品や幹事提供の品物を景品としたビンゴゲームを実施し全員大いに盛り上がり、大変和やかな雰囲気の中、黒木辰芳副会長の中締めで21時00分に終了しました。

■連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎

E-mail : enshuszk@yahoo.co.jp



集合写真（S52までの卒業）



（S53以降卒業）

大学支援事業目録贈呈

令和7年4月22日（火）、令和7年度第1回幹事会において全学同窓会大学支援事業（令和6年度第2回）採択に目録が贈呈されました。

今回は、11件の応募から表の5件が採択されました。

事業の内容は実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

所属・職名等	申請者	事業名
農学部応用生命科学科4年生 (国際プログラム群グローバル30)	Edeline LUISIA (エデリン ルイシア)	名古屋大学模擬国連大会 NUMUN 2025の開催
学生支援本部／心の発達支援研究実践センター 助教	林 陽子	新入生版「大人の社会科見学」イベント開催
理学部物理学科3年生 名古屋大学応援団 副団長	堀田 飛龍	名古屋大学応援団再始動プロジェクト「RESTART!」
グローバルマルチキャンパス機構 特任教授 名古屋大学シンガポール事務所所長 (Nagoya University Global Campus Ltd 理事)	今泉 寛	シンガポール支部設立総会
中国交流センター 副センター長 特任講師	劉 蕾 (リュウ ライ)	上海支部20周年記念イベント及び記念式典



授与式の様子



記念写真

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

名古屋大学全学同窓会インドネシア支部 ミニホームカミングデー

申請代表者：島田 弦（大学院国際開発研究科長・教授）

当初令和2年10月31日（土）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受けて、インドネシア国内の人の移動制限、イベント開催禁止、大人数の集まり禁止、大学キャンパス封鎖等の状況が続き、開催を見送っていました。その代わりに名古屋大学全学同窓会インドネシア支部オンライン・ギャザリングを令和2年10月10日（土）09:30-11:30に実施しました。山形英郎国際開発研究科研究科長（当時）によるあいさつ後、名古屋大学全学同窓会インドネシア支部長である Rizal Affandi Lukman 氏（インドネシア経済担当調整大臣府次官（当時））が「Recent Updates on Indonesian

Economy（インドネシア経済の最新動向）」について、講演しました。続いて、ネットワーキングセッションでは、参加者による自己紹介、そして今後の活動についてディスカッションがありました。対面でのイベント開催を要望する声が多く参加者から出されました。様々な世代の修了生33名の参加者があり、楽しいオンライン・イベントでした。

コロナ禍のため、数年開催を見送っていましたが、関係者の調整の結果、名古屋大学全学同窓会インドネシア支部ミニホームカミングデーを令和6年8月4日（日）に開催する運びになりました。このイベントはハイブリッド形式で開催しました。

名古屋大学全学同窓会（NUAL）インドネシア支部は平成25年8月に設立され、インドネシア経済担当調整大臣府次官（当時）・現シニアアドバイザーの Rizal Affandi Lukman 氏が支部長を務めています。名古屋大学はインドネシア同窓生を数多く輩出しており、彼らは大学をはじめとする教育機関、各省庁、民間企業など

幅広い分野でインドネシアの発展を担う人材として活躍しています。2020年現在、インドネシア支部には118名の同窓生が登録しています。本ミニホームカミングデーは、かつて名古屋大学で学び、現在インドネシアの各分野で活躍している名古屋大学の同窓生が一堂に会して旧交を温めることを通じて、同窓会組織の強化と同窓生のネットワーク構築を図るとともに、インドネシア支部の登録者数の増加に寄与することを目的としました。参加者については25名が現地で出席したほか、会場の大型モニターで Zoom ミーティングに接続し、オンラインでも大学院国際開発研究科同窓会長、教員、インドネシアの地方在住者など10名が参加する盛会となりました。

日本からは、島田弦・大学院国際開発研究科・研究科長が現地参加し、野田真里・茨城大学教授・国際開発研究科同窓会会長（当時）がオンラインで参加し、挨拶しました。インドネシア側からは、1990年代前半に名古屋大学に入学したシニア同窓生から、最近修了した同窓生まで幅広く参加してくれました。シニアメンバーは、インドネシアの政府機関・教育機関で指導的立場になっており、若い同窓生にとってはキャリア形成の参考にもなったようです。普段、同窓生とはいえ顔を合わせることもないため、このイベントを通して、修了生間のネットワーク強化をはかることができました。

このミニホームカミングデーをきっかけに、大学院国際開発研究科（GSID）同窓会インドネシア支部が立ち上げられました。GSID同窓会インドネシア支部の会長は Teguh Dartanto 氏（2012年修了・インドネシア大学経済・ビジネス学部長）がつとめることになりました。副会長は Bangkit Wiryawan 氏（2021年修了・ディポネグロ大学社会・政治学部講師）で、代表幹事は Anastasia Savirani 女史（2023年修了・エネルギー・鉱物資源省）です。この GSID 同窓会インドネシア支部は、タイ支部、フィリピン支部、カンボジア支部に続いて、4番目の支部です。



2000年代修了生の記念撮影

海外同窓生と在学生とのグローバルリンクの強化

申請代表者：CHUN Sohyun（環境学研究科 国際化推進担当・講師）

本事業では全学同窓会から支援を受け、インドネシアの本学協定校であるガジャマダ大学の教職員および学生に協力をいただきながら、インドネシア在住の名古屋大学同窓生との交流会やフィールドワーク、相互研究発表、ディスカッションなどの国際交流活動を行いました。本学からは学生7名、教員2名が参加しました。

2023年度は COVID-19 パンデミックが収束へ向かい、海外渡航が再び可能となったことから、近年国際的にプレゼンスを高めつつあり、日本留学への関心も高いインドネシアとの人的交流の推進が本学にとっても重要であると考え、本事業の訪問国に選びました。

インドネシアでは、主に以下の活動を行いました。

1) 同窓生交流会の実施：ガジャマダ大学を会場に名古屋大学同窓会を行い、インドネシア在住の名古屋大学同窓生に参加いただく

ことができました。「名古屋大学出身」というつながりを軸に、異なる地域や職業で活躍する同窓生との絆を実感すると同時に、参加学生は専門分野で活躍する同窓生の姿に大いに刺激を受け、研究へのモチベーションや将来のキャリアパスへの大きなヒントにつなげることができました。

2) 現地フィールドワーク：日本とインドネシアに共通する環境課題である地震の観測調査に同行する機会をいただきました。調査から得た研究結果がどのように実社会で活かされるのかというプロセスを間近で見て学び、研究と実践との融合を実感できる貴重な経験をすることができました。

3) ガジャマダ大学での相互研究発表およびディスカッション：バックグラウンドの異なる学生たちと分野を超えてお互いの研究について英語で議論しました。名古屋大学の学生たちは、インドネシア学生達と共に考え議論できたことに自信や喜びを感じたとともに、難しさも実感し、自身の研究に欠けている視点に気付くなどの課題も残りましたが、共にプログラムを乗り越えたガジャマダ大学の学生達との交流を通して異なる文化や価値観への理解を大いに深めることができました。

本事業を通じて、インドネシアの海外同窓生と在学生とのグローバルリンクの強化をはかることができ、本学とインドネシアとの交流の再活性化のきっかけをつくることのできたのではないかと実感しております。今後も、世界へ名古屋大学の魅力を発信し、人的交流の拡大に貢献することができる取り組みを継続していきたいと考えています。



ガジャマダ大学のみなさんと

文学部創立75周年記念講演会・シンポジウム

申請代表者：周藤芳幸（人文学研究科・研究科長）

令和5年11月25日（土）、野依記念学術交流館にて「名古屋大学文学部創立75周年記念講演会・シンポジウム」を開催いたしました。当日は、会場に約90名、オンラインでは約130名、合計で200名を超える参加者があり、大変充実した会となりました。開催にあたっては、名古屋大学全学同窓会大学支援事業より援助を賜りましたことをご報告するとともに、ここに深くお礼申し上げます。

講演会には、坪井秀人先生（早稲田大学文学学術院教授、名古屋大学名誉教授）にご登壇いただきました。「世界文学と日本語文学の過去現在未来」というテーマで、教養主義の質的変化のなか新しい型の教養をいかに生み出していくかという問題や、そ

の具体例として国文学から日本文学、そして日本語文学へという展開についてお話しくださいました。

シンポジウムは、川本悠紀子先生（本研究科准教授）の司会で、「人文知を未来に紡ぐ デジタル・ヒューマニティーズから見る世界」をテーマに開催されました。宮川創先生（国立国語研究所 テニュアトラック助教）はエジプトの言語、河江肖剰先生（本学高等研究院准教授）はピラミッド研究がご専門で、それぞれの研究においてデジタル技術が生み出す可能性を示してくださいました。また吉田早悠里先生（本研究科准教授）は、エチオピアの少数民族の文化物のデジタル・アーカイブ化のご経験から、誰のためのデジタル化かという根本的な問いかけをしてくださいました。デジタル化は、さまざまな局面で今後もすさまじいスピードで進むことは間違いなく、研究も教育も、いかにそれを組み込んでいくかが課題となろうかと思えます。文学部・人文科学研究科の未来を見つめる充実したシンポジウムとなりました。

文学部は入学者43名で始まり、75年を経た本年度の在籍生は学部・研究科合わせて1000名を超えております。これまでの75年の歩みを振り返り、ご協力くださったみなさまに感謝を申し上げるとともに、今後の一層の発展目指して参りたいと存じます。

（文責：担当副研究科長 飯田祐子）



「人文知を未来に紡ぐデジタル・ヒューマニティーズから見る世界」をテーマにシンポジウムを行う。左から吉田人文科学研究科准教授、河江高等研究院准教授、宮川国立国語研究所 テニュアトラック助教、川本人文科学研究科准教授

同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。

詳細は、全学同窓会ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 令和7年度関東支部講演・交流会

開催日：2026年2月8日（日） 14：00～18：00（予定）
場 所：KKR ホテル東京「瑞宝の間」（東京都千代田区大手町）
1時間の講演会の後、交流会を行います。
講演会：『高齢者の転倒・骨折・寝たきりを防ぐために
～「ぬ・か・づけ」と転倒予防川柳から学ぶ～』
東京健康リハビリテーション総合研究所所長 武藤芳照
連絡先：関東支部事務局長 岸 徹
E-mail：nual.kanto@gmail.com

2) 鏡ヶ池会東京支部総会

工学部土木系同窓会である鏡ヶ池会の東京支部（主に関東地方在住者が対象）総会
開催日：2025年11月14日（金） 18：30～（予定）
場 所：主婦会館プラザエフ（JR 四ツ谷駅 麹町口）
連絡先：鏡ヶ池会東京支部 支部長 高田知博（大成建設）
E-mail:takada@ce.taisei.co.jp

混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ 「合唱物語」の委嘱初演活動

申請代表者：後藤駿介（文学部・人文学科・英語学専攻 3年
（行事開催時、同学部同学科4年。現在、同学部学科卒業。））

混声合唱団名古屋大学コール・グランツェは、1977年に創立され、現在では団員数100名以上を有する中部地方最大規模の大学合唱団です。全日本合唱コンクールへの出場に加え、近年では定期演奏会にて「合唱物語」形式の作品を委嘱初演する活動にも力を入れています。「合唱物語」は、曲間にナレーションや台詞が入り、曲中には振り付けが入ることで、ストーリー仕立てで演奏されることが特徴で、演劇と合唱の中間に位置するような作品といえます。

2025年2月22日に東海市芸術劇場大ホールにて実施した第47回定期演奏会では、作詩・構成をみなづきみのり先生、作曲を土田豊貴先生に依頼し「合唱物語『君のフットボール』」を委嘱初演いたしました。本作は、全9曲とナレーション、台詞から構成される約50分の作品です。演奏会には本学の学生や同窓生を含む約900名のお客様にご来場いただき、またライブ配信やアーカイブ配信も多数の方々にご視聴いただきました。

本作の制作ならびに初演は、全学同窓会からのご支援があったからこそ実現できたものです。また、支援金を委嘱料に充てることで、練習会場費や、照明や会場の利用に関連する費用の負担を軽減することができ、より充実した練習を行うことができました。

混声合唱団名古屋大学コール・グランツェは活動の柱の一つである「常にチャレンジャーとして新しいことをしていく合唱団へ」を引き継いでいき、名古屋大学、愛知県、中部地方、そして日本全国の合唱界を盛り上げていけるよう、日々の活動にいつそう励んでまいります。改めて、名古屋大学全学同窓会支援事業として、本演奏会へのご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。



終演後の全体写真

○名大遠州会

名大遠州会第27回同窓会・第14回総会

日 時：2026年6月6日（土） 18：00～
場 所：ホテルクラウンパレス浜松
連絡先：名大遠州会同窓会事務局長 鈴木鉄郎
E-mail：enshuszk@yahoo.co.jp

○岐阜支部

岐阜支部2026年度総会・講演会・交流会

日 時：2026年5月30日（土）午後（予定）
場 所：じゅうろくプラザ大会議室（JR 岐阜駅隣）
連絡先：岐阜支部事務局2019nugaa@gmail.com

○全学同窓会・学士会主催 講演会・夕食会

講演会 日時 2025年12月9日(火) 16:00～17:30 (開場15:30～)

場所 名古屋大学野依記念学術交流館2階 カンファレンスホール

講師 勝野 雅央 氏 名古屋大学大学院医学系研究科長

演題 「認知症の百年戦記：治療実現から予防へ」

夕食会 日時 2025年12月9日(火) 17:40～18:40

場所 名古屋大学野依記念学術交流館1階



※詳細、お申し込みは全学同窓会 HP (<https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>) にてご確認ください。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号 : 00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

●住所等の登録・変更について NUAL member registration

全学同窓会では、名古屋大学と連携して、名古屋大学卒業生等電子名簿を整備し、大学及び同窓会からの情報発信を行っています。住所等の変更があった場合は、名古屋大学卒業生等電子名簿システム (<https://web-honbu04.jimu.nagoya-u.ac.jp/nual/>) の情報を更新いただきますようお願いいたします。

お問合せ先：名古屋大学 Development Office (DO 室) 卒業生等電子名簿担当

052-747-6559 (9:00～16:00) sotugyoumeibo@mail.nagoya-u.ac.jp

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～ 名古屋大学カードで繋がる大学支援 ～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード ～ ゴールド ～

入会者は**21,000名**を超えています。



年会費永年無料！
ポイントがたまる！

家族会員様も1名様に限り無料。

家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

① WEB からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

② 入会申込書からのご入会をご希望の方

名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付 : 9:00～17:00)

●カード優待サービス企業の紹介 <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>

●カード優待サービスの企業を募集しています。 詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

特集での東三河支部設立の経緯や同窓会サミットでの活発な議論、国際交流から学術・文化活動まで多彩な支援事業報告など、同窓会活動の広がりや深まりをお伝えしました。活躍する会員たちにご寄稿のお二人の幅広いご経験とご見識もぜひご一読ください。本同窓会へのますますのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。
(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter

No.44 令和7(2025)年10月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市中種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@mail.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会

